

# 平成27年度 青梅・羽村子ども体験塾 青梅・羽村ピースメッセンジャー




中学生広島平和啓発施設見学会 報告会  
平成27年8月4日(火)～8月6日(木)

# 目的

- 世界平和は人類共通の願い
- 戦後**70**年が経過し、戦争体験者は減少
- 若い世代が戦争体験談を聞く機会は、ほとんどなくなっている
- 次世代に平和の大切さを伝えていくことが必要
- 平和のために何ができるか考え、行動・発信できる人材を育成

# 参加者

平成27年度 青梅・羽村子ども体験塾  
中学生広島平和啓発施設見学会(青梅・羽村ピースメッセンジャー) 出発式

- 
- A group photograph of approximately 45 people, including students and staff, posing in a gymnasium. The students are wearing school uniforms. A banner in the background reads "平成27年度 青梅・羽村子ども体験塾 中学生広島平和啓発施設見学会(青梅・羽村ピースメッセンジャー) 出発式".
- 青梅市中学生 **13人**
  - 羽村市中学生 **12人**
  - リーダー **5人**
  - 引率職員 **5人**(教員**2人**・市職員**3人**)

# 広島でのスケジュール

8月4日(火) 岡ヨシエさん被爆体験談  
慰霊碑等見学

8月5日(水) 平和記念資料館見学  
ピースワークショップin広島  
広島二中23期生被爆体験談  
平和の夕べコンサート

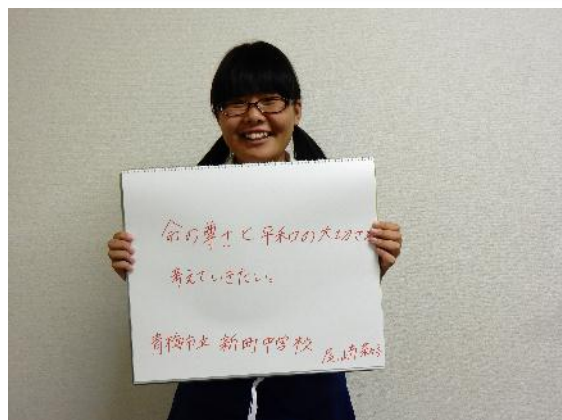
8月6日(木) 平和記念式典参列  
慰霊碑等見学

# 参加者報告



- 「8時15分広島の空は青かった」 広島で考える
- 「その一瞬が忘れられない」 就活ingとPM
- 「残された人々のそれぞれ」 Peace Girls
- 「世界から見た平和」 Peace レンジャー
- 「70年後の今」 Colorful Peacer

# 「8時15分広島は青かった」広島で考える



青梅新町中 3年  
尾崎 菜々子



青梅泉中 2年  
廣瀬 海風



羽村一中 3年  
前田 彩月



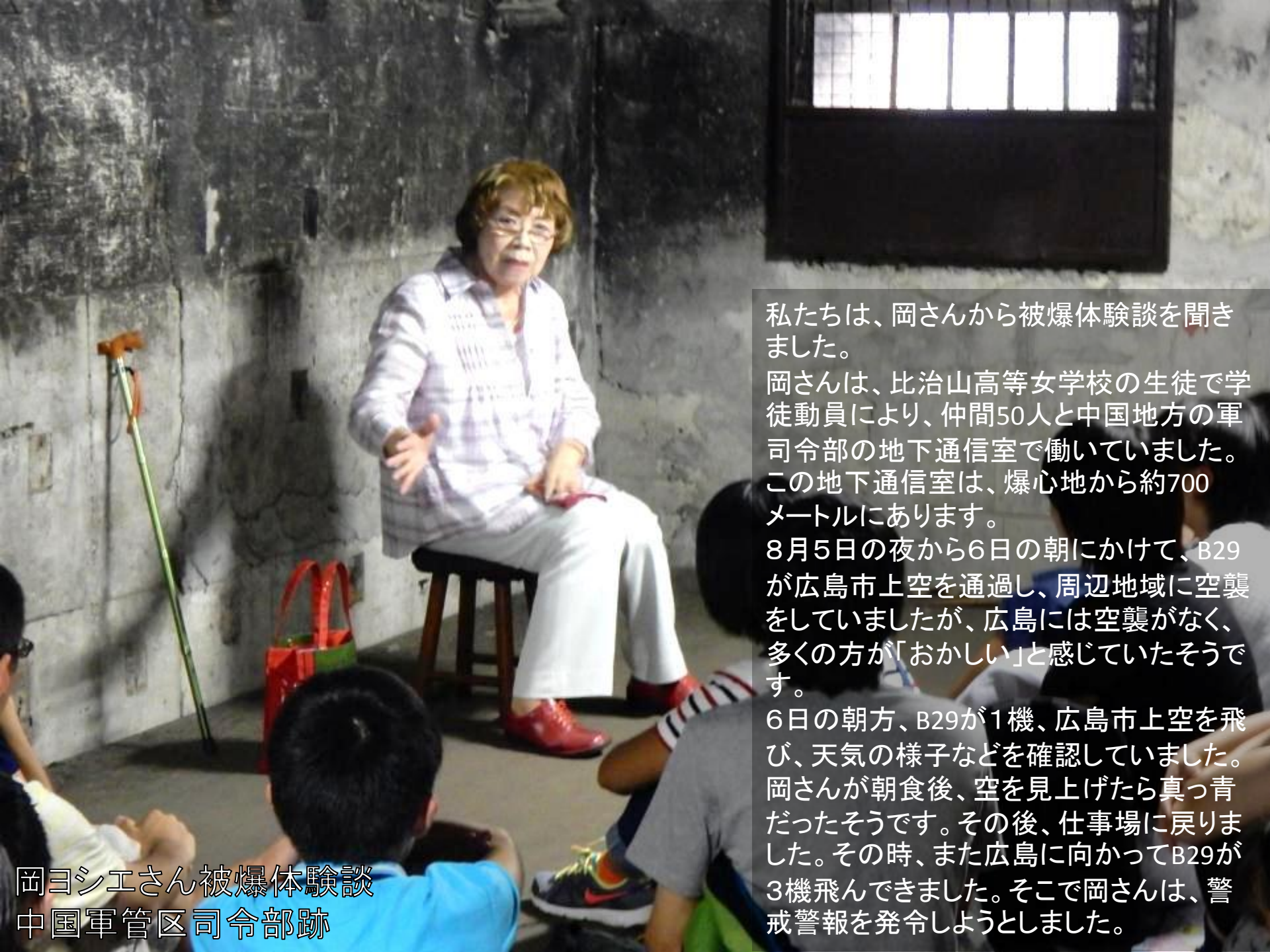
青梅泉中 3年  
峯邑 康志



羽村三中 2年  
三河 凜之介



リーダー  
山本 雄貴



私たちは、岡さんから被爆体験談を聞きました。

岡さんは、比治山高等女学校の生徒で学徒動員により、仲間50人と中国地方の軍司令部の地下通信室で働いていました。この地下通信室は、爆心地から約700メートルにあります。

8月5日の夜から6日の朝にかけて、B29が広島市上空を通過し、周辺地域に空襲をしていましたが、広島には空襲がなく、多くの方が「おかしい」と感じていたそうです。

6日の朝方、B29が1機、広島市上空を飛び、天気の様子などを確認していました。岡さんが朝食後、空を見上げたら真っ青だったそうです。その後、仕事場に戻りました。その時、また広島に向かってB29が3機飛んできました。そこで岡さんは、警戒警報を発令しようとしていました。

岡ヨシエさん被爆体験談  
中国軍管区司令部跡




19 広島に投下された原子爆弾  
The Atomic Bomb Dropped on Hiroshima

原子

3機のB29の内、1機がエノラゲイ。  
時間は8時15分。強烈な光、熱風、熱線が広島を覆った。明るすぎてフラッシュのように、何も見えなくて…  
気が付くと薄暗い中に、真っ赤な太陽が上がっていた。  
吹き飛ばされて、気を失った岡さんは、細い鞭のようなもので殴られた感じがしたそうです。

平和記念資料館 原爆の模型





岡さんは気を取り戻すと、部屋は霧がかかったようでした。地下通信室から出ようとする、同級生の板村さんが居るのが見えました。岡さんは、地下通信室の裏にある堀の土手から広島を街を見下ろすと、建物が全て瓦礫となり、シーンとしていました。まわりを見回すと、近くに兵隊さんが倒れていて、「新型爆弾にやられた」と言うと、意識がなくなっていました。地下通信室に戻り、使える電話で、軍の他の司令部に連絡して「広島がやられました」と言うと、相手の兵隊さんは啞然として、状況を説明するよういわれので、倒れていた兵隊さんが言っていたのを思い出し「新型爆弾にやられました」と伝えた直後、ものすごい熱風と炎が地下通信室に入ってきました。「逃げます」と言って、外に出ると火に囲まれていて、岡さんと板村さんは、死を覚悟しました。その時、空から恵みの雨とばかりに黒い雨が降り、火が消え、黒い雨に感謝したそうです。その雨に有害な物質が入っているとも知らずに。

岡ヨシエさん被爆体験談  
中国軍管区司令部跡



## 平和記念公園 動員学徒慰霊塔


動員学徒という言葉を知っていますか。岡さんは動員学徒で働いていましたが「もっと勉強したかった」と言っていました。

原爆により、広島で働いていた大勢の子どもたちが亡くなりました。現在、そういった動員学徒にまつわる慰霊碑は平和記念公園内に三つあります。その慰霊碑の一つひとつに、被害者や関係者、家族の方の悲しみ、怒り、そして、多くの方が亡くなった事を忘れないという思いが詰まっています。

8月6日、慰霊碑の前にはたくさんのバナナが置いてありました。疑問に思い、係の人に聞いてみると、「当時の子どもは、あまりご飯が食べられずひもじい思いをしていたため、その当時、とても貴重だった果物を備えてあげようと思ったからです」と言っていました。

2015/08/06

# 広島県立第二中学校原爆慰霊碑



当時15歳の岡さんの日常、広島にいた方々の日常や大切な人が、一つの兵器により奪われました。二度とこのようなことが起こらないように、岡さんは戦争の悲惨さについて辛そうに語ってくれました。また、広島二中23期生の方々にも話を聞き、塚本さんは、時間が過ぎても一生懸命、最後まで色々話をしてくださいました。

私たちは話を聞いたうえで、広島二中原爆慰霊碑を見ました。慰霊碑は平和な時代に生まれてきた私たちに平和を伝えると同時に戦争の形も伝えるためのものだと思います。しかし、このことが理解できたのは、被爆者の経験を聞いたからこそ分かった事だと思います。

被爆者が少なくなっている今、話を聞いた私たちの最低限の役割として、後世に、話をしてくださった被爆者の方々のお話を伝えていくことです。

# 「その一瞬が忘れられない」就活ingとPM



青梅西中 2年  
成宮 友基



青梅七中 2年  
手塚 光希



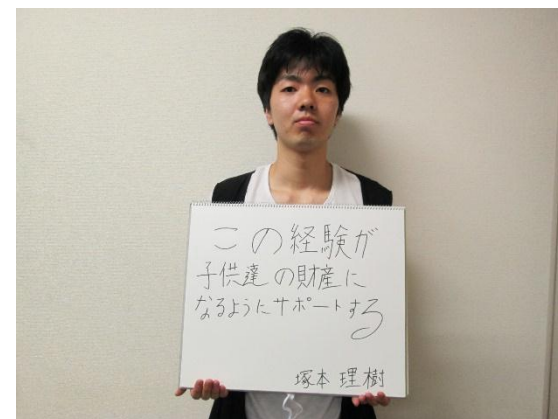
羽村二中 3年  
鈴木 虎太郎



青梅吹上中 3年  
小暮 愛理



羽村三中 3年  
佐藤 千沙奈



リーダー  
塚本 理樹

# 広島二中23期生 新出さん ピースワークショップin広島



広島二中23期生で当時2年生だった方に話を聞きました。2年生は、原爆が投下された時、広島駅の近くの東錬兵場に草取りのために集合していました。1年生は、爆心に近い本川の近くに集合していたため、全滅しています。戦時中の中学生の生活は、今とは全く違うもので、学校では、柔道や剣道などの武道を習い、英語の授業も一応あったそうですが、敵国の言葉とされ、しっかり学ぶことはできませんでした。勤労奉仕が始まると、食糧不足改善のために農作業をしたり、空襲を受けた時に燃え広がるのを防ぐために、家を壊して空をつくる建物疎開をしたりするようになり、勉強をしたくてもできなくなっていました。新出俊男さんは「やること全てが戦争につながっていた」と言っていました。戦争のために働いて、勉強もできず、将来の夢も奪われていったのです。

# 広島二中23期生 小畑さん 被爆体験談



小畑彰三さんは、爆心地から2キロメートルの東錬兵場で、農作業をする予定でした。集合時間は8時10分。250人ぐらいの2年生が集まっていました。ふと空を見上げると、B29が飛んできました。ただ、その時に空襲警報はありませんでした。小畑さんたちは、「また来たか」と、いつもの事のように考えていましたが、観測機についている落下傘が落ちていくのを見て、疑問に思ったそうです。

原爆投下直後、2年生の方々は、爆心地から比較的遠い場所にもかかわらず、爆風によって吹き飛ばされました。落ちてくるのが見えて、すぐに爆発したそうです。「一瞬だった」と言っていました。

# 広島二中23期生 浅野さん ピースワークショップin広島



浅野温生さんは、おじいさんが芋を作っていたため、食糧に、そこまで困っていませんでした。原爆投下の当日、お母さんに「芋をもらってきて」と頼まれ、学校を休み、江田島のおじいさんの家に行く船に乗っていました。爆発を見た後すぐに江田島から船で戻り、農作業をする予定だった友人を探しながら広島市内の様子を見に行きました。友人を探す中、倒れた電車の中で椅子に座ったまま焼け死んでいた人。「熱い。助けて」という声を何度も聞いたそうです。結局、その時には広島2中の友人を見つけることはできず、お母さんのことが心配になり、家に帰ることにしました。やっとの思いで家に帰りつき、お母さんの無事が確認できたときは、ホッとしたそうです。家族の存在の大きさはいつの時代も一緒だと思いました。

# 広島二中23期生 田淵さん ピースワークショップin広島



田淵廣和さんは、主に「戦後の日本」の事を話してくれました。中でも印象に残ったのは「日本の変化」についての話でした。戦時中の教育は、日本中心でアメリカの印象も敵国など、あまり良いものではなかったそうです。しかし、戦後、軍歌以外の音楽を教わり、世界にはこんなに素晴らしい音楽があるのかと、印象が大きく変わったそうです。

田淵さんは、「みんなで平和を守っていくことが大切だと思う。相手の事、それぞれの文化などを知る事で、平和が保たれていく」と言いました。

ピースメッセンジャーとして平和を伝えていく活動の中、まず、「平和とは何か」を考える体験でした。



# 広島県立第二中学校原爆慰霊碑



小畑さんの友人に、当時1年生だった故選浩行くんがいました。故選君は、全身大ヤケドでしたが、自宅のお寺になんとかたどり着き、お母さんに治療をしてもらいました。しかし、良い薬がある訳でもなく、十分な治療はできませんでした。

8月7日、小畑さんがお見舞いに行った帰り際、故選くんは、とても大きな声で「さようなら」と言ったそうです。その2時間後に、亡くなりました。

本川沿いに、広島二中原爆慰霊碑があります。慰霊碑には、原爆によって亡くなった二中の生徒と先生方、352人の名前が刻まれています。そこに、故選くんの名前もあります。1年生は、原爆が落ちた時、この近くで作業をしていたため、全員が亡くなったのです。

# 「残された人々のそれぞれ」Peace Girls



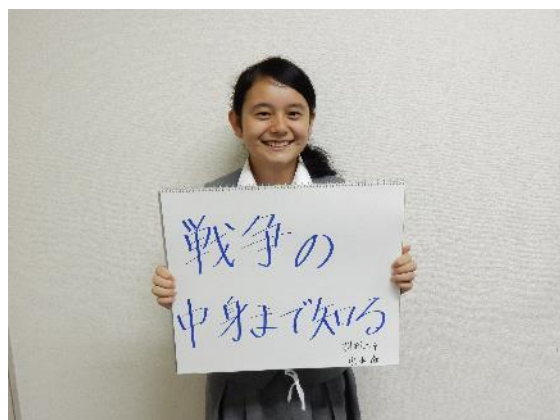
青梅三中 3年  
神戸 遥



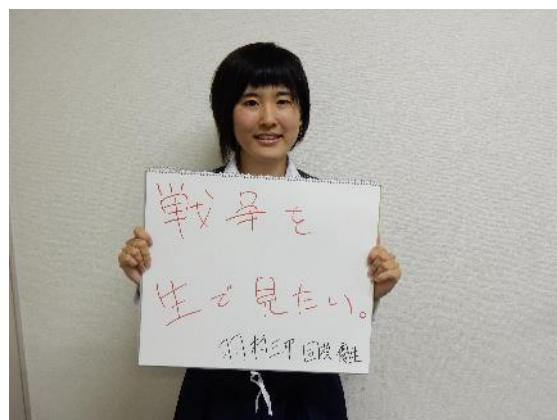
青梅六中 3年  
小峰 詩菜



羽村一中 3年  
菊池 らん



羽村二中 3年  
出水 夢



羽村三中 3年  
國枝 優生



リーダー  
三浦 絢音



爆心地から600メートル離れた広島県立第一高等女学校も被害を受けました。教職員20人、学徒動員で建物疎開作業に従事していた1年生223人を含む、生徒281人の、計301人の尊い命が犠牲となりました。爆心地から半径約2000メートルの地点は全壊、全焼しました。爆心地から600メートルの地点にあった女学校も、残ったのは片方の門柱だけでした。その門柱の隣に、1955年、広島第一県女原爆犠牲者追憶之碑が建てられました。

8月6日、私たちは、慰霊式に参加しました。現在の広島県立広島皆実高等学校の校長、生徒会長、そして当時2年生だった方の3人の方から追憶の言葉が送られました。

# 大野允子さん被爆体験談 広島第一県女原爆犠牲者追悼式にて



慰霊式に参加していた大野さんにお話を聞きました。大野さんは「ヒロシマ、遺された九冊の日記帳」という本を書いた方です。なぜ本を書いたのかというと、当時の女学校1年生が残した日記帳を見て、自分の命を何に使うのか考えたら、「書いて伝える」という答えが出てきたからだそうです。「書いたものは、日記帳のように残っているし、書くということは、生きているからできること。見たこと、聞いたことを一生懸命、色々な言葉で言いたい」と言っていました。大野さんの本を少しだけ読みました。それだけでも日記帳を残した少女の事を感じることができ、文字の力はすごいと感じました。「見えないものが見える。そんな文を書きたい」とも言っていました。文字で伝えることは、直接会って話して伝えることより難しいことだと思います。それを選んだ大野さんは、とてもすごい人だなと思いました。

「あなたは生きていたのですか どうしても行くとあの子は逝ったのです」

「全滅のクラスと聞いておりました」怒りを秘むる友の母の目

大野さんには語られなかった過去がありました。

大野さんの友人の梶山さんは、1年生の当時、盲腸炎のため学校を欠席し、クラスでただ一人被爆を免れました。しかし、風邪をひいていても学校へ行った同級生は、被爆して亡くなりました。

「あなたは生きていたのですか どうしても行くとあの子は逝ったのです」

「全滅のクラスと聞いておりました」怒りを秘むる友の母の目



梶山雅子歌集

ヒロシマ70年

京都カルチャー出版

この詩は梶山さんの書いた「ヒロシマ70年」という本のもので

す。大野さんも同じく、友だちの母親から向けられた視線が、強い批判を感じさせました。それは、大野さんが原爆投下の日、たまたま10キロメートル離れた地点にいたため、友達はみんな亡くなったのに、自分だけが生き残ってしまったからです。

大野さんは、その向けられている批判の目が辛いという思いと共に、大野さん自身にも、遠くから見ている事しかできなかったという後ろめたい気持ちがあり、ずっと話すことができなかったそうです。





核廃絶! ヒロシマ・中高生による署名活動  
We're collecting signatures to abolish nuclear weapons  
核兵器禁止条約締結に向けて私達は行動し  
The signatures we collected will be handed to the UN

核廃絶!!  
ヒロシマ・中高生  
による署名活動に  
ご協力をお願いします!  
We are collecting  
signatures to abolish  
nuclear weapons.

最後に、広島県の中高生と出会いました。彼らは「核兵器禁止条約」の交渉を始めることを求める署名運動をしていました。核兵器を無くすために、私たちは署名をしました。「一人ひとりの声は微力でも、集まれば世論を変えられるはずです」これは活動を行っていた中高生の言葉です。一人でも多くの方がこの言葉で平和について考えれば世界は変わると思います。



# ピースワークショップin広島 参加者集合写真



私は、実際に被爆し、遺された方々が現在に至るまで行ってきた活動を直接知り、未来に伝えたいメッセージは何なのかを考えました。大野さんのように、小説という形で実際に起こったことを文字で残す方がいいれば、直接、自分の被爆体験を人々に語り続けている方もいます。このような方々は、想像もできない様な辛い体験をしてきていて、思い出したくないこともたくさんあると思います。その様な中で、事実を伝え続けているのは、「忘れてほしくない」「風化させたくない」という想い。そして、何よりも「広島から目を逸らさないでほしい」という、強い想いがあるのだと思います。

私たちは、そのような想いをつないで、絶対に戦争を繰り返さずに、平和を守り続けていくことを未来に伝えていきたいです。

# 「世界から見た平和」Peace レンジャー



青梅三中 2年  
酒井 高行



羽村一中 2年  
原島 拓登



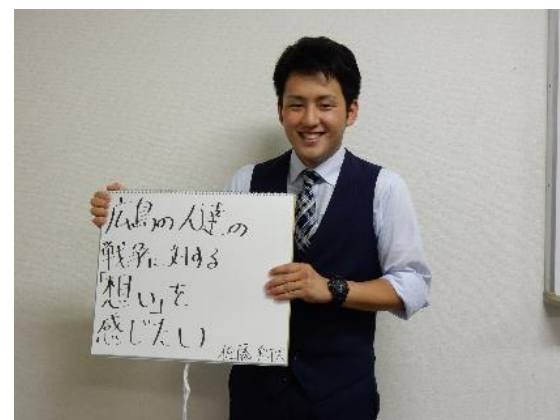
青梅霞台中 2年  
本橋 ゆりえ



羽村二中 3年  
花谷 望絵



羽村三中 3年  
斎藤 若奈



リーダー  
佐藤 翔大

# 平和記念公園に外国人が多いことに気づき インタビュー活動にチャレンジすることに！



私たちは、広島での一日目の夜の班ミーティングで、たくさんの外国人が、平和記念公園の慰霊碑を見学していることが気になり、その方の気持ちを知りたいという思いから、二日目と三日目に、平和記念公園で外国人にインタビューをすることにしました。英語での質問になるので、メッセージボードを用意しました。最初は、とても緊張したけど、日本語を少し話せる方、フランス人なのに英語が話せる方がいたり、もたついてしまうところもありましたが、どんどん楽しくなり、笑顔とジェスチャーで乗り切ることができました。私たちは、インタビュー活動を通じて、積極性を身に付けることができました。それでは、その結果をまとめたものを発表します。



23か国、71の方にインタビューを行いました。インタビューで私たちが感じた印象を発表します。まず、問1として、「why did you come to HIROSHIMA?(なぜ広島に来たのですか?)」と聞きました。私たちの予想では、“広島について学ぶため”が多いと思いました。結果は、“観光”が3人、“広島について学ぶため”が28人で、“その他”が40人と一番多かったです。“その他”と答えた人は、ボーイスカウトやJAICの研修生であり、色々な理由で広島に来ていました。

## Q1 あなたはどのようにして広島へ来たのですか？

次に問2として、「How do you think about using atomic bomb?(原爆を使ったことについてどう考えますか)」を聞きました。私たちの予想は、全員が“反対”と答えると思っていました。海外から広島にわざわざ来て、広島について学ぶなら、絶対反対すると思ったからです。しかし、“賛成”と“その他”と答えた人もいましたので、その理由を聞いてみました。まず、“賛成”と答えた、アメリカ人の27歳男性の理由は、「戦争を早く終わらせるため」と、当時アメリカが原爆を落とした理由として発表したものと同じでしたが、「原爆によって平和が訪れた。しかし、二度と使われないことを祈る」と言っていました。次に、“その他”と答えた、イギリス人の50歳の男性の理由は、「もし自分が戦前にいたら、きっと賛成しただろう。しかし、今この広島を訪ねてみて使ってはならないと思った」と言っていました。



Q2 原爆を使ったことをどう思いますか？

次に問3として、「How do you think what we can do for peace? (平和の為に私達に出来ることは何ですか)」を聞きました。  
答えは手帳に書いてもらいました。その中でも、「お互いを大切にすること」「対話をする事」が特に印象に残りました。



Q3 平和のためにできることは何ですか？

# THE 70TH ANNIVERSARY OF 広島市原爆死没者 HIROSHIMA PEACE

ピースワークショップで、広島二中23期生の塚本さんに聞いた被爆体験談の中で、「兵器が無いことと、平和は同じじゃないんだよ」という言葉が心に残っています。

この言葉について考えてみると、広島・長崎以降、核兵器が使われていないのは“対話”という手段で、核兵器を使用しないという意味での平和を実現しているのだと思います。

兵器があろうとなかろうと、人々の心がけ次第で、平和は実現するのです。そして、対話で、世界で起こる紛争や内戦を止められないはずはありません。世界中の人々が安心して暮らせるよう、対話によって戦争を起こさない意志を持ち続けること。そして、お互いの文化や考え方を知り、歩み寄ることが大切だと思います。

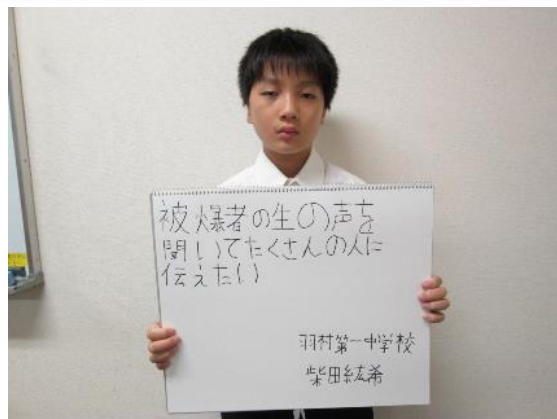
私たちは、広島での活動を通じて身に付けた自信により、自分から積極的にコミュニケーションを取り、行動に移せる人でありたいと思います。



# 「70年後の今」Colorful Peacer



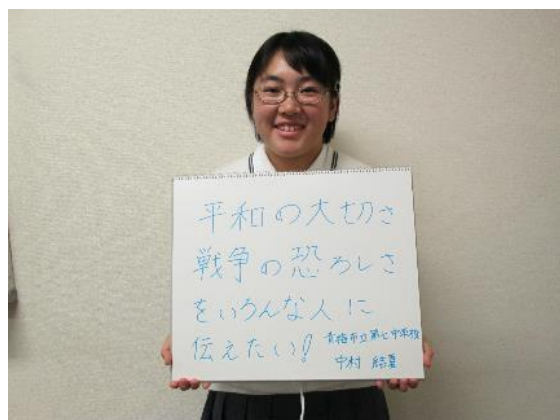
青梅一中 2年  
松本 智稀



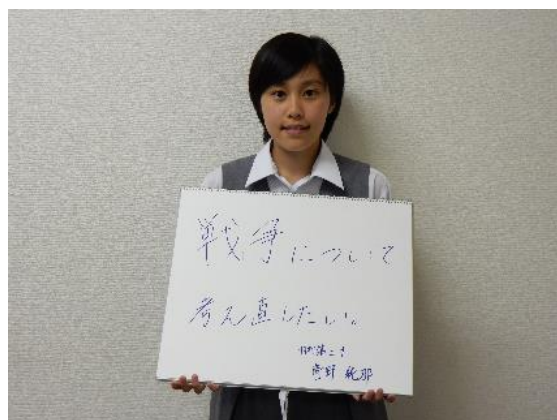
羽村一中 2年  
柴田 紘希



青梅二中 1年  
渡邊 結子



青梅七中 3年  
中村 結夏

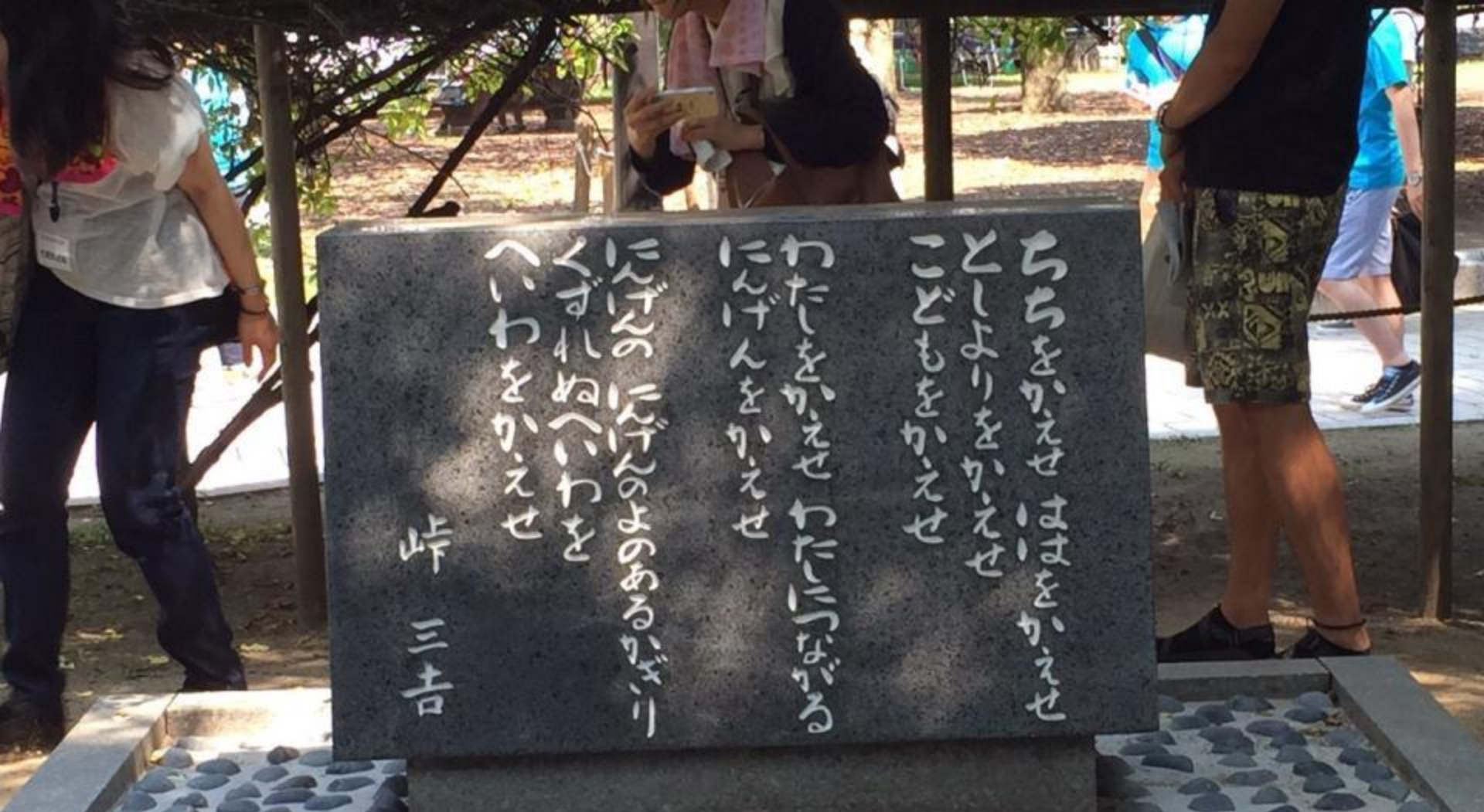


羽村二中 3年  
菅野 純那



リーダー  
楠見 真智子





ちちをかえせ ははをかえせ  
としよりをかえせ  
こどもをかえせ  
わたしをかえせ わたしにさがる  
にんげんをかえせ  
にんげん、にんげんのよのあるがざり  
くずれぬへいわを  
へいわをかえせ

峠  
三吉

私たちは、広島で平和記念公園を見て回りました。まず、慰霊碑です。“噫(アア)”と書いてある旧天神町北組慰霊碑、「ちちをかえせ ははをかえせ としよりをかえせ こどもをかえせ...」という詩が書いてある、峠三吉詩碑もありました。この詩の最後には、「へいわをかえせ」とあります。これは、家族・友だちが居たあの中の楽しさ、みんなで過ごしたあの日々をかえせと訴えているのではないかと思います。これらの碑の前には、いつもお花や水が供えられています。この水は、大やけどをして「水がほしい、水がほしい...」と言って、力尽きて亡くなった人々のためにあります。

峠三吉詩碑  
平和記念公園




平和記念公園には、水に関連するものがたくさんあります。「平和の泉」、原爆死没者慰霊碑の後ろにある「平和の池」、平和記念資料館の前にある大きな「祈りの泉」。そして、公園の周りにある川。この川には柵が付いていません。こういったものは、水を求めながら亡くなった方のためだと思います。

祈りの泉  
平和記念公園



平和記念資料館に展示されている遺留品はボロボロで、何か、誰の物が分からない物がたくさんありました。一方、8時15分で止まった懐中時計など、きれいに残っているものもありました。また、原爆直後の写真や、火傷した人の写真もありました。その中で一番印象に残ったのは、「滋くんのお弁当箱」です。お弁当箱には、初めて収穫した大豆が入っていて、滋くんは喜んで持って行ったそうです。しかし、滋くんはお弁当を食べる前に亡くなってしまいました。あんなにうれしそうに持って行ったお弁当を食べられなくて悲しむお母さんのシゲ子さんの気持ちがよく伝わりました。私たちは、本やテレビ等の情報しか知りませんでした。でも、遺留品や写真を見て、戦争の本当の恐ろしさを知り、戦争をしてはいけないという気持ちが高まりました。

滋くんの弁当箱  
平和記念資料館



本川小学校平和資料館は、当時、小学校の校舎でした。原爆投下時、校庭にいた人は全員即死、校舎内にいた人も、生き残った人はたった2人でした。校舎は、広島初の鉄筋コンクリートの建物でしたが、熱風で講堂は鉄骨をむき出しにして燃えていて、鉄の窓枠も吹き飛ばされたそうです。しかし、倒壊は免れたため、翌日には臨時救護所として負傷者を受け入れました。

本川小学校平和資料館

被爆前の  
広島市立本川小学校



被爆前のヒロシマ市内

被爆直後の  
広島市立本川小学校

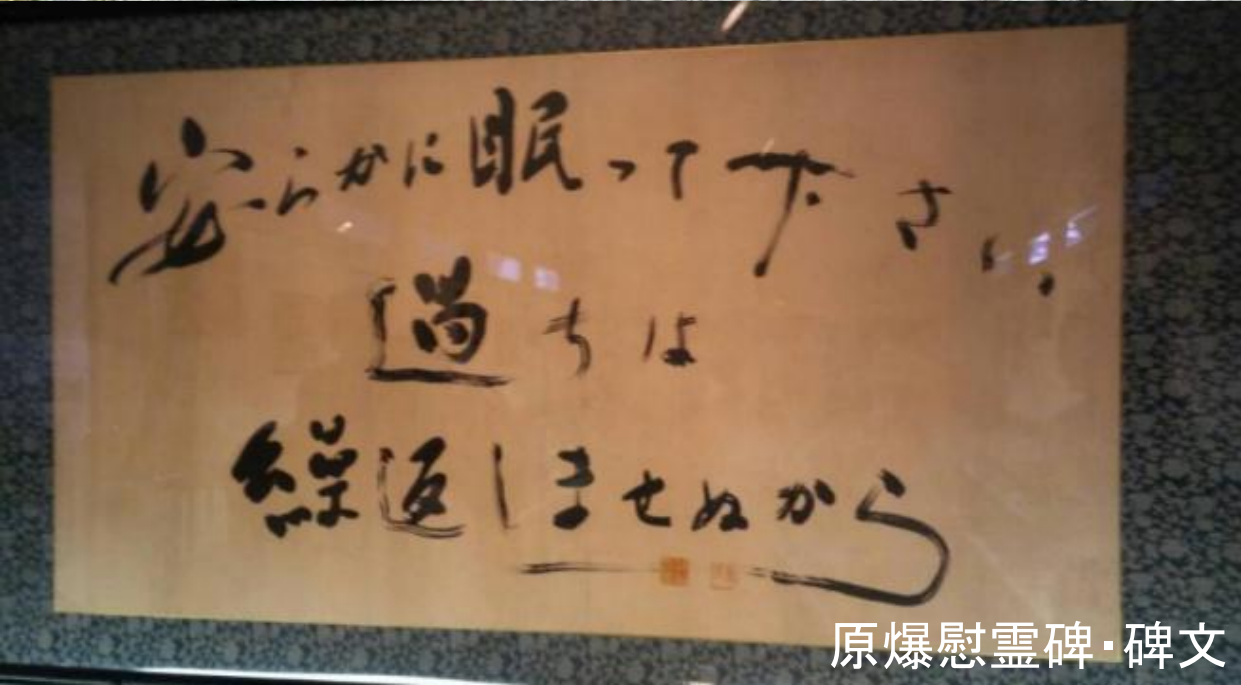


被爆後のヒロシマ市内

戦後しばらくして修復され、それから約40年間、校舎として使われました。  
1987年に取り壊されることになりましたが、被爆者や市民などの「被爆の生き証人を残したい」という意見を受けて、被爆した校舎の一部と地下室が「平和資料館」として保存され、今に至ります。



原爆死没者慰霊碑  
(広島平和都市記念碑)



原爆慰霊碑・碑文

本川小学校平和資料館では、現在の原爆ドームである、当時の広島県産業奨励館のバルコニーの柱や、本川小学校の運動場にあった「ニワウルシ」の木の一部が飾られていました。また、被爆前後の広島の写真や曲った鉄兜と、焼けただけたモンペなど、たくさんの展示物がありました。

その中で、私が最も印象に残ったものは、「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」という、平和記念公園にある原爆死没者慰霊碑に使われている原文です。前日に、慰霊碑を見てきました。この碑の文章には、主語がありません。碑を見ただけでは、誰が原爆を落とし、過ちを犯したのかわからないという議論がありましたが、現在では、主語は全世界の人間を意味する“WE”とされています。碑の前に立つ全ての者が核戦争を起こさないことを誓うという点でつくられています。

平和資料館で原文を見た時に改めて優しさもあり、力強さもあって、一文だけでもこんなに伝わるものがあるんだなと思いました。



8月6日、平和記念公園で行われた平和記念式典に私たちも参列しました。式典では、広島市長の平和宣言や、総理のあいさつなどがありました。国際連合事務総長のあいさつでは、広島が受けたダメージや、被爆した方々について、真摯に考えてくださっていました。このメッセージから、被爆者への尊敬の意、広島への応援、核兵器廃絶に向けての決意を感じました。

最も心に残ったのは、こども代表による「平和への誓い」です。小学6年生の二人が、戦争に向き合い、平和について考えている文章を朗読しました。この中に、「私たちは、今まで受け継がれてきた命と平和への思いを受け止め、考え、自分たちにできることから、『小さな平和』を創ろうとしています」とあり、争いの怖さや醜さを考え、身近なところから良くしていこうという決意が伝わり、将来、大きな平和を創るきっかけになると感じました。

# 未来へ



「平和ボケしている」これは、私たちが話を聞いた岡さんから言われた言葉です。今の私たちは、好きな事ができる、とても恵まれた環境の中で生きています。私たちは、偶然戦争のない国、戦争のない時代に生まれ、その中を当たり前のように生きています。しかし、これから戦争が起こらないという保証は、どこにもありません。ある日突然、戦争が始まってしまうかもしれません。だから、私たちは戦争がどんなものなのか、どうしてダメなのか、実際に何が起こってしまったのかを理解して、自分の考えを持ち、伝えていかなければなりません。広島で起きた事から目をそらさず、見つめて、忘れ去られないように。自分の考えや行動をしっかり見直し、自分のしていることが本当に正しい事なのか、本当に平和につながる事なのか、ただ周りに流されているだけではないか。そして、その考えを仲間と話し合い、分かち合っているか。そんな風に、一人ひとりが自分の事や周りの事を考えていけたら、過ちは少なくなると思います。このピースメッセンジャーの活動が、平和への道へとつながる事を願います。



ピースメッセージ

知る・深める・伝える  
戦争と平和に関心を持ち続け  
世界に平和の発信を！